

地震編

わが家の安全対策

家の中に家具の無い安全なスペースを確保する

人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。また、少しでも安全なスペースを確保するように配置換えをする。



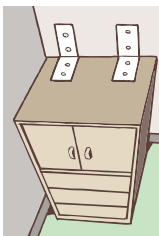
出入口や通路にはものを置かない

いざというとき安全に避難できるように、玄関などの出入口や通路には倒れやすいものを置かない。



家具の転倒や落下を防止する対策をとる

家具と壁や柱の間にすき間があると倒れやすくて危険。また、家具の上には落ちやすいものを置かない。



寝室や子ども・高齢者・傷病者がいる部屋には倒れそうな家具を置かない

就寝中の地震によって、子どもや高齢者、傷病者などは倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れるおそれがあるので固定するなど工夫する。

本棚・タンスなど

壁面に密着させ、上部をL字型金具などで固定するか、家具の下に板などをはさみ、壁面にもたれさせる。二段重ねの場合はつなぎ目を金具で連結する。

窓ガラス

室内側に飛散防止フィルムを貼る。

カーテン

防災加工品を使う。

暖房器具

ストーブなどの暖房器具は、耐震自動消火装置機能のあるものを使う。

住宅用警報器

煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれる。消防法改正により家庭でも設置が義務付けられた。

照明器具

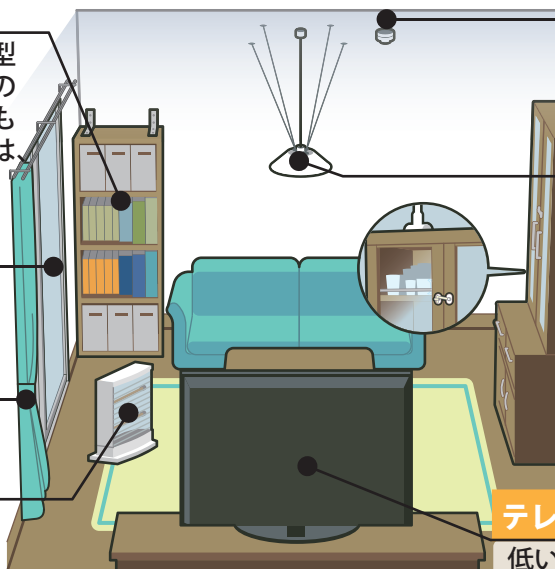
1本のコードですつるすタイプのものは、鎖と金具で数か所を留め、蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで固定する。天井への直付けタイプがより安全。

食器棚

扉が開かないよう金具をつけ、内部にはすべり止めなどで、中の食器の飛び出しを防ぐ。

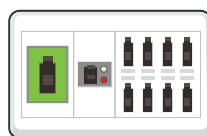
テレビ

低い位置に、金具やロープ、装着マットなどで柱・壁に固定する

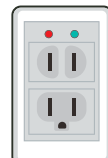


地震による電気火災対策には感震ブレーカーが効果的です

大地震の際には、転倒した電気ストーブや、損傷した電気コードのショートなどが原因となり電気火災の危険が高くなります。感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを切って電気を止めます。電気工事を要するものから、既設のブレーカーやコンセントに追加で取り付ける簡易的なものまで、さまざまな種類があります。



分電盤タイプ



コンセントタイプ



簡易タイプ

屋根・アンテナ

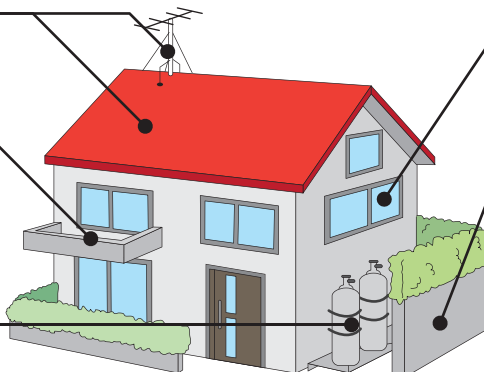
不安定な屋根やアンテナは補強する。

ベランダ

物が落ちる危険がある場所には何も置かないようにする。

プロパンガス・灯油タンク

鎖などでしっかりと固定する。



窓

飛散防止フィルムを貼る。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理しておく。